

す。しかし、ほかの町や村と同じように、米づくり中心の農業から、花や野菜、くだものづくりをふくめた農業へと変わりつつあります。花では菊づくり、くだものでは会津身不知柿<sup>みしらずがき</sup>、くり、りんごづくりがさかんです。野菜のトマト、じゃがいも、きゅうりや生しいたけ<sup>なま</sup>なども作られています。

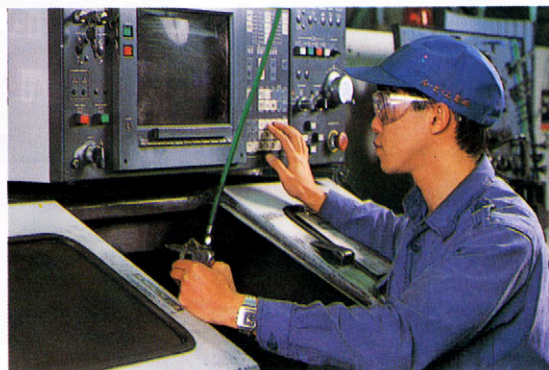
「焼き物の会津本郷町」の名のとおり、焼き物は古くから伝えられ、町の中心的な産業として大切な役わりをはたしています。陶器<sup>とうき</sup>（原料が陶土<sup>とうど</sup>という土なので、土ものと言われている）のほかに磁器<sup>じき</sup>（原料が陶石<sup>とうせき</sup>という石なので、石ものと言われている）も作られています。磁器が作られているのは、関東地方<sup>かんとく</sup>より北では、ここ会津本郷町だけとなっています。

また、碓子<sup>がいし</sup>づくりも焼き物とつながりが深く、作り始められたのも明治時代<sup>めいじ</sup>の中ごろからで、日本国内でも早い方です。

さらに、先端技術<sup>せんたんぎじゆつ</sup>産業の工場もふえています。きれいな空気、豊かな水、交通の便など、工場を作るのに条件<sup>じょうけん</sup>が良いためです。町でも工業団地づくりを進めています。今では、テレビやステレオ、パソコンなどの部品を作る工場が多くできています。さらに、焼き物の技術をいかしたファインセラミックス（すぐれた性質をもった焼き物）の研究もさかんに進められています。



▲焼き物工場



▲先端技術工場